

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

# 婦 人 子 供



## 第 九 卷 第 一 號

### 目 次

- 新年を迎ふ 湘南生
- 幼児教育とお正月 和田實
- 小鳥のいさかひ 中村五
- 父兄に對する希望 如柳子
- 教育上の所感 藤井利登
- 幼稚園の手工と小學校の手工 藤五代策
- 幼児の遊戲は如何に指導すべきか 後藤ちとせ
- 婦人百話 樂天子
- 烈公の家庭教育 美蓉子
- 子供と繪 野生司香
- 料理 久野仁子
- 俳句 鹽野喜零
- 短歌 眞宮起雲
- 雜錄 三件
- お伽訓話「三つ願」 子

フ レ ー ベ ル 會 社 發 行







# ●●豫約募集●●

フレイベル會編纂

## 幼稚園遊戲的 手工圖形

定價

金壹圓五拾錢

郵稅

未詳

右は主として幼稚園に於ける手技及小學校の初學年に使用せらる可き手工の圖形約四百個を蒐集したるものにして新教育主義の實現上必要な教材書なり。本會は特價金壹圓を以て五百部を限り豫約募集す希望者は至急申込む可し、但し應募者既定數に満たざる時は出版せざる可し。

東京女子高等師範學校内

明治四十一年八月

フレイベル會



東京女子高等師範學校 教授 中村五六  
東京女子高等師範學校助教授 和田實 合著

# 幼 兒 教 育 法

菊版美裝

定價金壹圓 郵税金拾錢

フレーベル會員一割引

## 一名改良せられたる幼兒保育法

教育の隆盛前古に比なき明治の聖代にも未だ幼兒教育に關する系統的説明を試みたるものなく所謂名士の斷片的言説の徒に世人を迷はするのみ。是本書の因つて出づる所以なり。世の父兄たり教育家たるもの精讀せざる可からず。

發行所

東京女子高等師範學校内

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

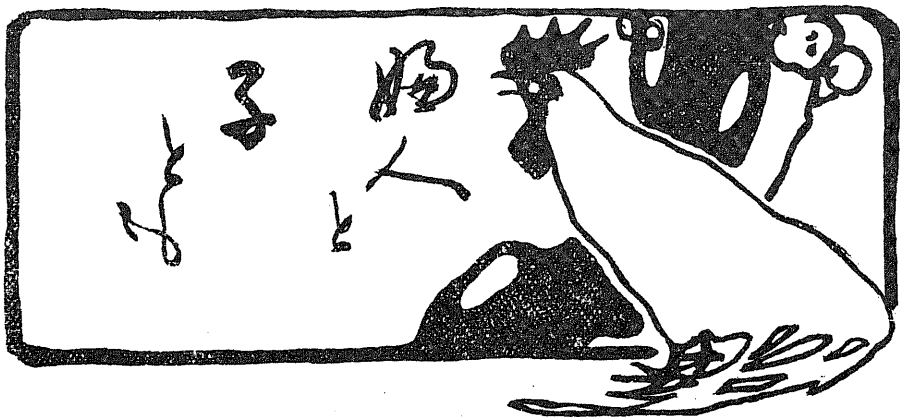
發賣所

東京市神田區表神保町

東  
京  
堂

振換貯金口座一七二六六





# 恭賀新禧

謹而會員並ニ  
讀者諸君の萬  
福を祈る。

フレイベル會

明治四十二年元旦

幹事一同



# 新年を迎ふ



二

鳥兔匆々、乾坤再び回り來りて明治は茲に四十二回目の春陽を迎ふことゝなりぬ。顧みれば本誌が過ぐる明治三十四年に於て孤々の聲を上げてより卷を重ねること八、號を積むこと約壹百、今や第九卷を會員諸君の机上に呈するの期に際せり。此間本誌が幼兒教育界に貢獻せる處決して尠少にあらず。而も我國の幼兒教育は依然として混沌の間にあり。本會たるもの豈忸怩たらざるを得んや。新春の陽光は人心をして新たならしむものあり。吾人また筆硯を新にして大に盡くすところあらんと欲す。希くは過去に於て本會の爲に多大の同情を寄せられたる諸姉、幸に倍舊の御同情を以て斯界の爲め、吾人の事業を翼賛せられんことを。敢えて會員並に讀者諸君に望む。

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

幹  
事  
一  
同



# 幼児教育とお正月

和田 實

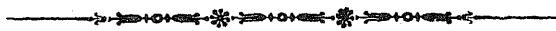
芽出度いお正月早々又しても理屈っぽい談義は甚だ以て恐縮の次第ではあるが、持つて生れた武骨性は時と處とに構ひもなく突發するので少しばかり御耳、否御目に達したいと存じます。切て云ふ迄もなくお正月は子供の世界である。もう幾つ寝ると」と指折り數へて待つて居つたお正月のとであるから子供が嚮々として喜び遊んで居るの當然のことであるが然りとて之を放任して置いた丈では此機を利用して教育し様と云ふ譯には行かぬ。否此悦ばしきお正月として幼児の發達上價値ある生活の一部分たらしむることが出來ぬ。因つて今幼児教育上父兄の最も注意すべき一二項を掲げて見様と思ふ。

一父兄は此機を利用して幼児と交際す可し。

平素は父親にしても母親にしても職業其他のことであち／＼と幼児を相手にして居る譯には行かぬ

のが普通一般のことである。殊に父親などは此點に於て平素は頗る非教育的である。從つて子供は父親の性格などに因つては何等の感化を受けて居らぬのが多い。可なり能く子供の面倒を見る父親でも逆も正月の様に子供を相手に悠々と談笑する譯には行かぬ。然るに正月は此點に於て可なり時間を平素に比しては非經濟的に費することが出来る此非經濟的時間即ち悠々と消費する時間は幼児に採つては最大好期で此時に於て充分に父親と交際し、母親と交際し乃至叔伯父母に接し親族の誰彼にも接して一には實際的習慣を實地に練習し一には夫等の人の性格の感化に浴し漸次家風に浸染し行く機會を得るのであるから正月は幼児教育上頗る大切な時期と云はねばならぬ。世の父兄たるものは此心を以て充分に自己の誠意を盡くして幼児を遇し一方には之を感化し誘導して己が肉身在那邊にあるか平素の家庭教育乃至は學校教育は如何程の効果を表はし居るやを觀察す可きである而して此間の觀察に因つて得たる所は幼児今後の





教育の方針となり、父兄の教育思想の材料となるものである。故に世の父兄たるものは此お正月に際して特に我子等と悠々交際するの時間を惜んでばならぬ譯である。然るを況んや酒食に荒さみて時ならぬ無禮講をそこへに演出して平素の謹嚴なるかの如き風彩を幼児の眼前に打ち崩して幼児をして人は皆斯の如き不体裁なるものなるかの感を抱かしむるものあるは誠に言語に絶えたる失体と云はねばならぬ。更に之を幼児の側より見れば平素尊嚴の意のみ強くして恩愛の恵み少く感ぜし父兄よりして遂に骨肉の温情を得るの機を逸せしむるもので若し幼児をして云はしむれば不幸之に過ぎたるものなしと云ふに違ひない。吾人は世の忙しき父親をして切に此機を利用して幼児を賞撫せられんことを而して其平和なる夕の敷刻を彼等との清話の爲めに費されんことを、我親愛なる多くの幼児の爲めに切に希ふものである。

#### 二 幼児の遊戯を賞勵す可し

遊戯は幼児の好む所のもの、常に要求する所のものである。従つて殊更に之を激勵するの必要もな

いものであるが併し正月は時正に酷寒で幼児は稍もすれば老人の仲間入をして炬燵やあなかにもぐり込むものがないとも限らぬ。此の如きは決して幼児をして發達せしむる所以ではない。人或は冬期は植物の生長の止まるが如く子供の生長も休止せるが如くに考へて従つて然のみ教育的施設を要さぬかの様に考ふる人もないではない。是は其を知つて其二を知らぬものである。成る程冬は幼児の身体的生長の上に然したる増加を見ることがない。併しながら其内部的發達、活動の巧緻と云ふことは寧ろ此間に進歩するものと云はねばならぬ。此時に於て遊戯は決して輕視す可からざるものである。遊戯は幼児の活動の發達上極めて緊要なる練習事項である。人或は遊戯を以て單に滑稽的嬉戲と認むるものがあるが飛んでもない間違である。勿論滑稽的遊戯も吾人の認むる所であるが然も是は遊戯の一性質に過ぎない。寧ろ遊戯の本質其ものは頗る眞面目なるもので然も極めて練磨的のものである。此程の意味に於ける遊戯は冬期に於て最も練習に適すと云はねばならぬ。況



して此種遊戯の結果は体内の發温作用を興奮せしめて生理的機能をも進歩せしむるものである。従つて其賞勵する遊戯は多くは練習的なるを良としなければならぬ。更に適切に云は、運動的なるものを最も適當なりとするものである。人或は此機を以て寄席、芝居其他の觀察的遊戯を興して大に子供を愛したと考へて居る人もあるが吾人は之を採らぬものである。何となれば斯る觀察的遊戯は此永き休みの中の僅かなる時間をのみ用ゐ得るもので其他は依然として費され可く殘されて居るので従つて觀察的遊戯の分量よりは練習的遊戯を多量に要するからである。而して子供に遊戯を賞勵する手段として父兄は進んで自ら子供の仲間入りをして共に遊ぶ可きである。風上げ、追羽子、最も結構である。かくれんぼ、探し物、また頗る妙である。吾人は父兄が幼兒を對手とした家庭幼稚園の日々繰返されんことを希望して止まざるものである。

三幼兒教育とかるた會  
吾人はかるた會を以て或一派の人の主張するが如

く教育上何等の益なしと認むるものにあらず。然もかるた會に幼兒教育とは全然無關係なる可きを主張するものである。否或場合に於てはかるた會を以て幼兒教育の見地より之を排斥せんことを欲するものである。之を幼兒教育の側よりすればかるた會を催ふされんよりは希くは談話會を催ふされ、唱歌會の催ふされ遊戯會の催ふされんことを主張するものである。親しき親族又は近隣の間に於て太陽の光線のある間を限りて今日は甲家に明日は乙家にと數日の間交はるゝ小兒會を催ふして談話、音樂、競戯の三方面に於て幼兒を遊ばす可き工夫を凝らされんことを切望するものである。

四 双六と幼兒教育  
双六は正月の玩具として遊戯として歴史的威權をも有するものである。従つて現今に於ても或は教育双六の名、繪双紙屋の店頭に往々にして見られることがある。實に怪しからぬ限りである。元來双六は觀察的遊戯の一種で豫期的賭博的興味を満足せしむる外何等教育的價值を有するものではない。



ない、然るに世人は何等の疑念もなく之を幼児に賞勵すの有様である。吾人教育者の立場よりして見れば沙汰の限りと云はねばならぬ。此の如き非教育的なる玩具は速かに我幼児教育界より放逐するの必要がある。尤も吾人が双六を忌むのは所謂東海道双六曰く何々双六と云ふ其名前や繪圖面の組立て方に就て云々ではなくて單に「さい」を玩んで遇然の結果で勝負を争ふ所にあるのである

から若し此双六の遊戯法を改良して他の或競技的方法を以て勝負を争ふことになるならば、吾人は寧ろ手を上げて之を賛するものである、何となれば双六其ものは巧みなる排列又は組立てを有するもので此點に於ては實に理想的玩具と云ひ得るからである。故に吾人は世人が速に此遊戯法を改良して教育上に利用せられんことを望むものである。

### 朝鮮婦人の容貌

日本人は黄人種で、誰の顔でも黄色味が多少帯びて居るが、中には歐羅人、即ち白哲人の顔に幾しの遜色もない程に、白紅色の顔の日本婦人も少なく無いと、ベルツ博士も確言して居るのである。然るに韓國婦人には、白皙を呈せる顔は殆んどない。日本人中には其祖先が朝鮮から來たものゝ外に、馬來とアイヌとの二種があつて、以上三つの型がまじつて居るから違ふのである。日本人の眉毛は一方だけで平均一千本あるとは、東京帝國大學の解剖教室の調査で明瞭になつて居るか、韓國人は、大層薄いのである。韓國婦人は其理思として柳眉を貴び、上下の端をひどく抜去るから、中心だけ残り居るので、其数は分らねも、眉の濃いのは十人に二人、中位が十人に三人、あとの五人は甚だ薄いのを通例とする。而して韓國婦人は日本婦人よりも眼瞼が稍上り鼻の格好も基根部が廣く、鼻尖に至る傾斜が甚だ小である。日本婦人の口裂は普通一直線を成して居るが、韓國婦人は兩口角が稍下方に垂れて居る。

又、日本の男子と、支那の男子と比べると、三點の相異がある。此三點は、如何に、日本人が支那を裝うて見ても、化け了せぬのである。其れは第一日本人は支那人よりも毛深く、髯を剃りても其痕の違ふと、第二は日本人は眼光が鋭いと、第三日本人の足の先は支那人よりも廣いと。



# 小兒のいさかひ

中村 五六

どんなに温順いといふは、方でも、縦ひ他人といさかひを爲ないまでも、姉妹同士などでは必ず爲るもので、このいさかひといふ事を少し硬く云へば喧嘩、口論、鬭争などいふ事になるので、鬭争といへば先づ掴み合ひといふ事ですが、この掴み合ひはしないまでも、口論喧嘩位は何誰もなさつたに相違ない、私なども其は覺えがある、どんな仕たことは無いと云つても、大人に成るまで否、中年になるまで、否、多少物心の附くまでに必ず一度や二度は爲られたに違ひない、何も其を仕たからとて敢て耻るには及ば無い、この喧嘩口論を爲るといふ事は男女に限らず、文野に拘はらず

である、現今兒童の教育といふ點から、左様云ふ事を可成矯めなければ不可ぬといふ説や、或は絶

對に爲せないやうにするが宜いと説くものもあるのであるが、小兒が喧嘩や口論をするのは、

小兒の本能の一つである  
と私は考へる、この本能といふ事に就ては、自己を保存せんが爲にする所の本能とか、又は營養を主とする所の營養本能とか、種々なる本能がある小兒が喧嘩や口論をするのは、或は防禦の爲にするものもあらうし、或は保全の爲にするものもあらうが、畢竟このいさかひといふ事をするには毎時も怒りの情が伴うて起る、例へば、自分の思ふまゝの事を爲せないとか、又は希望を妨けられた、ア、残念だ口惜しいと云ふやうな事から起つて來るものである。

それが如何なる風に現はれて來るか云へば、多くの小兒は泣くとか、又は首をイヤ／＼など、云つて左右に振るとか云ふのが普通で、それが少し激しくなると突除るとか、或は推倒すとか云ふ事をするが、甚だしきはチダンダを蹈むとか、その他随分荒ッばい仕打で現はして來る、それに直ぐ顔面に其色を現はすものであるが、併し夫等の



性質は、之を大人に比すれば屢々激しいものであるけれども、その現はれ方の激しい割には、その行為が極めて單純であると同時に時間も至つて短かい、之に反して、大人となるとなかく時間が長い、二日も三日も乃至一週間も一たび腹を立つと口を利かないなど云ふ人が、兎もすれば有るのである、それは兎も角として、小兒がいさかひを爲るのは何等の益があるかと云ふに、過度に渡らない限りは固より本能と認むべきものであるから、必ず多少の利益があるのである、故に普通世間の人の言ふやうに、このいさかひと云ふ事に就ては小言を云つたり、又は八ヶ間敷く云つて貰ひたくないものである。

何故といふに、この社會といふものは何れの方面でも競争の烈しいもので、この激しい競争の状態を現はすのに、小兒のいさかひといふものは荒ツぱい形式に於て現はすものである、例へば、國と國といさかひをするには、砲彈や戎器や、その他軍艦とか水雷とかいふやうな種々なる武器を以てするのであるが、それが小兒のものは棒干切

などでするのである、假設棒干切を持たないで口喧嘩を爲るのは、恰度甲乙の國と國とで所謂外交談判を爲るやうなものであるから、少兒がいさかひを爲るのは本能とは云ひながら、前にも云ふが如く、過度に渡つてはならぬ、何事も過ぎたのも不可ないが、左様かと云つて及ばないのも宜しく無い、喩へば日に三度食べる御飯でも、三杯といふやうに定めて居ればお腹の加減も宜いのであるが、それを若しも甘味といつて一杯食べ過ぎるとサア後でお腹が大儀で仕方が無い、所が、三度々々三杯つゝ食べるものを、何かの都合で一杯一杯半ぐらゐしか食べないと云ふと、少し時間が過ぎると空腹で仕方が無い、之は及ばぬのである、右の喩の如く、食べすぎて、又食べ足らないでも、何れも宜くないのである、併しまだ食べ足りない方が始末が仕好い、素より小兒のいさかひといふ事は餘り好ましくは無い、併しチョットいさかひをしたからと云つて、無闇に叱りつける杯は是また褒めた咄といふ事は出来ない、と云つて之を奨励せよと云ふのでは無い。



一口に小兒のいさかひと云ふけれども、之に對して慎重なる注意を拂うときは、随分その場合や程度に依りては價值があるのである、この本能があれこそ、個人と個人は競争して商賈に勵み職業に勤め學生としては學問を研ぎ智識を磨くのである、それ故に一家この心あれば繁榮し、一郷この心あれば富み、一國この心あれば富み且つ榮えるのである、就中一國となつては特に斯心の必要を感じるのである、もし一國にして此心が無かつたならば、逆も他の侵害を防禦する所では無い自己を保全することすら出来るものでは無い、乃ち小兒のいさかひは、これらの形式の粗ッぽいのであるから、親達や又は長上の者などが無闇に之を矯正するのは宜しく無い。

で、その取扱法は如何したのかと云ふに、成るべく小兒が怒る機会を避けるやうにすると同時に、父母等も怒つて小兒に接してはならぬ、よく世間では小兒が怒つて泣きでも爲ると、その泣き止むまで放つて置く人があるが、これは甚だ宜しくない、又或者は左様いふ時に、小兒を獨りぼツ

ちにして置いて、さうして自分は他の部屋などへ避けて居る親達などもあるが、是等は何れも其當を得たるの處置とは云へぬ、それよりも凡て斯ういふ時には、小兒自身をして自然の結果を経験せしめて、そして自省を促がすといふやうな處置を取らなければ不可ない。

併し大体から云へば、決して之を獎勵するの必要は無い、随分明治以前の武士教育としては、坐ろに親達が其子に對つて之を獎勵するの傾があつたのであるが、今日では其必要を認めない、今でも小兒がいさかひでも仕て飯つて來ると、動もすれば之に体罰などを科する向が尠なからぬが、其様なことを爲るよりも、常に其交はる所の友に優れたる者を選ばしむるがよい、男女に關はらず、生涯競争といふ事の範圍を脱する事は出来ないものであつて、如何しても之を繼續して行かならぬのであるが、その競争といふ事を爲るに附けても性質の良いものにして欲しい、現今學校や家庭などでも種々の競争が行はれて居るので、随分結構は結構だが、どうもそれに伴ふ弊害があるのであ



る、それゆゑに夫等の競争を今少し品好くしたく  
謂ゆる君子の争といふまで無く、ともそれに近  
いものにした、それに此競争も一個々々で無く  
之を擴めて一群または一團となつた大いなるもの  
にして利用したのである。

### ▲腦髓と人の賢愚

(醫學士 渡邊房吉氏)

腦髓の輕重大小は動物の賢愚利鈍を判別する一の根據  
となり、諸動物に一般に其腦髓が人よりは輕小なる故に  
知識が人に及ばないといふ事に歸着し、動物中にても腦  
の發達せるものは發達せざる者より賢いといふ事になる  
人間でも一定度迄は此原則が適用せらる。解剖學上から  
腦量が平均成人男子千三百七十五瓦女子千二百四十五瓦  
ある。但男女腦量の相違は先天的である。年齢に就ても  
二十歳より三十四歳迄の間が最重く、五十の坂を越すと  
漸次減少する。又文化の度が腦量に關係する。古今の名  
士に就いて見るも腦の重いものは偉い様である。併し又  
他の統計は之を打破るべき事實を示して居る。乃て賢愚  
の別は腦重以外其表面の皮質大小に關係するといふので  
ある。即腦廻轉の多少に依るのである。

## 父兄に對する希望

如 柳 子

(1) 小供は貴い可愛いものであります。  
他人の子供でさへこれを見ると誠に可愛いもので  
その天真爛漫の狀態、言ふに言はれぬ貴いところ  
があるのでござぬます。實に白金も黄金も到底に  
子供に及ばない。そしてそれが自分の子供であつ  
て見ればどれ程可愛かどれ程貴いか。どうも子供  
が多くて困るといふのは間違で、内の中には千兩  
箱が二つも四つもあるところがつてゐると思ふて宜しい  
のであります。ほんとうに千兩作る人になるか万  
兩作る人になるか知れたものではない。

(2) 教育せねばならぬ。  
子供は可愛いものである貴いものであるといふて、  
頭から丸めて賞めて居るだけでは決して千兩作る  
人になつて呉れない。否善い人になつて呉れない  
養つて教へざるは父の過教へて嚴ならざるは師の  
過といふてある、可愛い子には旅といふこともあ



る、何れも教育の大切なことをいふたので、茲では師の過の方はいふに及ばぬが、生れた儘で、丸めて賞めて育て、もよい人にはなれぬ。人には自然慾といふものがある教育して此の慾をよい加減に整理せねば決してよい人になれぬのである。

(3)さらば教育する方法は

子供は教育せねばならぬことは解つて居るとしてさて如何に教育するか、其の略に親から子から師匠からといふことがある、此の三つが揃はねばならぬ、そして其の歩調を一にせねばならぬ。此の中に師匠からといふ方は言はぬ、又子からといふ方は多少關係があるが、今日は一般に中等の性質のものとして御話する。而して親からの方は今日御話する重要な點である。即ち父兄方に心得て頂きたいことをいふのである。

(4)如何なものにしようとするか

世の中でエライ人といふのは、必しも楠正成や東郷大將や下田歌子さんばかりじやない、成程此の人達はエラクとはいはぬ、然しこれは十万人中の一人で、普通の人の望むべきことでない、然

るに世間にはエライ人になれ、東郷さんのやうになれと望む父兄がある。能く其の人柄を考へねばならぬ、又家柄身柄を考へねばならぬ、一口に柄にないをするなといふ。これが肝心な點である、その上エライ人といふのは何も軍人や、歌人や、政治家にあるばかりではない、豆腐屋にでも魚屋にでもエライ人はある世の中に名前の出た人ばかりが英雄じやない。一生名を出さぬ人も眞面目で無事に暮して行くことが出来れば、それでよいそれが最早エライのである。であるから悪いことをせぬ善い人になれと勧めるのはよい、何も世間でいふエライ者になれと勧めるのは當らぬ。其の程にはけて一方には祖先の業を継ぎ、一方には子孫に其の業を譲る、それ程の名もなく、それ程の金がなくとも日々正直に怠りなく自分の職業を盡くして行くのは或る者は平凡といふだらう、然もこれが一方からいふ英雄なのである。一個のエライ人である。世の中は四月八月常月で借りず借さずに子供三人といふ歌がある、一文も借りずに暮せれば何とエライ人ではないか、少し六かしい



が天爵を貴ぶやうにならねばならぬ。

(5) 無暗に叱るな

子供の爲る仕事や、いたづらの中には、非常な眞理が含まれて居る。將來の職業なども此の中から

見出す例が幾らもある。されば無暗に叱る譯には

行かぬのである。實際世間では親が子供を遇する

に度々叱るやうであるが、自分の考へては、叱るこ

とは大概の場合に不必要である。可愛くは五つ教

へて三つ褒め二つ叱りて育てよや人といふ歌のあ

る通り、教へて置いて餘計褒めるといふ風の取り方

でなければならぬ。自分の忙しいのや面倒の爲め

に教へることをせずに叱りてばかり居るのは、其

の子供を卑屈にするもので、益々叱れば益々言ふ

ことをきかぬ様になる。可成叱らぬやうにして欲

しいものである

(6) 親の機嫌を中心とせぬこと

世の中には子供といふことを忘れて、親自身の快

不快によりて子供を褒貶する。尤もよくないこと

である。これは第一親を信用しないやうになる。

例へば親が思つた通り金利けをして心中愉快であ

る、自分は嬉しい嬉しい爲めに悪い事をしても叱

らぬ、時には却て興がることもある。之に反して

自分に不快のことがあれば、それ程もなきことを

叱り、善いことをしても賞めぬ。之は眞に子を愛

するものゝ爲るべきことでない、子供を教育する

には子供を中心とせねばならぬ。

(7) 物事の不足に對しての注意

甲の生徒の衣食や持ちものを乙の生徒は羨む。殊

に女兒に多い、これは經濟上の事情で買つて與へ

られぬ場合もある。其の時に乙の子供は非凡な人

間であらぬ以上は、必ず自分の家は貧しいから買

つて貰へぬと悲觀し、随つて甲には頭が上らぬ、

肩身が狭いと感ずる様になる、随て卑屈になる。

これは誠に厭ふべきことであるが、これは一方經

濟的事情と關係するから頗る六かしい。親も買つ

て遣りたきは山々なるも不如意の爲めに出来ぬと

いふ場合には、十分時間を費す積りで靜かに柔か

に能く分る様に諭してやる。禮は重しきに從ふも

ので家の貧福の程度によるべきで、着物持ち物に

よりて人間に甲乙はないものであるといふことを



曉らせ、且つ人間の貴い所は其の人品にあるので、之を包む衣裳や持ちものにはないといふことを呉を諭し、また父兄自身も決して衣服持ちものを恥るやうな様子を見せないものである。そして却て反對に不義の富貴は浮べの富といふことも例擧して教へてやるのである。併し、何時までも善き衣服は着られぬと決めるのも亦よろしくない、漸次家運を進めて行くといふことは勧めねばならぬことである。

(8) 其の日暮しの品性を表すべからざること世間には一日の利益は一日に費す、所謂宵越しの金を持たぬといふ古い俠客風の悪習慣が労働社會や一部の商人にある。例へば今日これは餘分の利益があつたとすれば、それで飲食する物見遊山をする。一時に其の金を失つて骨休めであるかの如くに考へて喜ぶものがある。中には妻君が節約者であり、良人が節約者であつたりして、互に費すまいと心掛ける向きも勿論あらうが、そんなこと言はずに、たまには骨休めもしなくてはいけないと勧められると、渴して居るときであるから慾

の方が勝つて、遂に賛成してしまふこともある。これは兒童教育上弊害のあることで、これを見たに聞たりする兒童は、それをよいことの様に心得、不知不識それを真似るやうになる。この一時的に費す金の小部分を割いて貯金することも出来れば、少部分で精神上の愉快を買ふことも出来る。斯かる場合には殊更に貯蓄心を示す必要があると思ふ。

(9) 勤儉の風を養ふべきこと前に反して一錢でも餘計なものは貯へ置くといふことにすれば、之を見聞する子供は不知不識貯金の面白味を曉つてくるやうになる、勿論學校によつては貯金をさせて居るところもある。私の學校でも、先年尋常科が四年で卒業の當時、青木といふ女の子が五拾圓の貯金をしたことがある。五拾圓と思つて見れば大したものであるが一年目には十二圓五十錢、一ヶ月には一圓四錢、一日には三錢五厘の割である。そして此の貯金した子供の家庭は車夫である。確かに世にいふ其の日暮しである、其の日暮しであつても、子供に貯金させるこ



とを樂しむとした所謂前の僅かの金でも精神上の樂しみを貰へるといふことに當る。されば其心掛一つである、世に金を貯へるといふことのある大半は利けるといふよりは遣はぬといふことにあるので、西洋の諺にも大利を思はんより小費を省くに如かずとある。此の如きことを子供に見聞させるやうにすれば、子供は知らず、勤儉の風に化するのである。近來一般に奢侈に流れて然も一攫千金の考をするもの、山師的商賈で利けようとするものが出來たのを慨かせられて、先般勤儉の詔勅が下つた。これを思ふても、僅少のものを頼む考がなくてはならぬ。

(10) 良習慣を作ることの注意

古から一日温めて十日冷やすといふことをいふ。學校ばかりで大騒ぎやつても、家庭で注意せねば良習慣は養成出來ない。學校へ出る時間の一定歸路時間の一定飲食衣類の適當及び整理等は一定良習慣を作る必要があるもので、學校で口を酸くして習慣の大切なることを話して聞かせても、家に歸ると、忽ち家庭に於ける惡しき習慣を見聞す

る、時間のことなどは何とも思はぬ家庭、飲食衣服のだらしない家庭の有様を見聞するときは、子供は其の方に傾き易いものであるから、學校の仕事は家庭に於て打ち壊はされるといふことになる。家庭に於ては或は職業によりて、子供と歩調を一にするものの出來ぬ場合もあらう、併し子供が其の職業に關係せぬ以上は、子供にだけでも良習慣を付けさせることの出來ぬ筈はない。要するに父兄の心掛け一つによることで、十分努力して貰ひたいものである。

(11) 父兄の言語のこと

言語は其の人の意思を發表し終つて人品の高下に關係する大切なことであるから、習慣養成の上にも最も大切な關係がある、父兄は一層習慣の大切なることを知つて、子供の前では謹慎の態度に出でねばならぬ。子供は父兄の寫真といふから、子供の言語は家庭の言語に同化されてゐるのである。中には學校の感化を受けるところもある。私の學校のやうなところはさうである、一般の父兄は子供の標準手本となる言語を用ゐぬ、子供をウヌと



呼んで、子供が親をウマといふ實例もある。馬鹿野郎、畜生、餓鬼などは下等社會によく聞くとろであるが、これが子供の手本となつてはたまたまではないか。どんな暮しをして居ても立派な言語を遣つて差向がない、立派な紳士令嬢でも野卑な言語を使ふのは邊で見よくないものである。

書に親むの習慣 (村山文子)

流石に喧しき車の轍の音も聞えずなつた夜は早や一時半、二時に近い、これまで机に對つて居た妻は何を爲たらう、物の本など机上に開かれてあるけれど、夫は遂に讀まなかつた、今夜書ねばならぬものも遂に一行も出来なかつた、开して此深更まで……實は唯默然として座つて居たのである、何うかして書に親むの習慣を作りたいと思ふけれど、幾歲かの間漂々として身も心も定まらなかつた姿の餘りに永く書に遠つて居たので、今急に改めやうとしても仲々に骨が折れる、寂然として獨り座して居ればありし昔の事共思ひ出られて胸苦しく、幸に書を繙くとしても僅に一時二時にして心疲れ氣倦んで了う、思はしけれど仕方がない、只之から心掛て新しい習慣を作て行く外はないのです、けれど今爰は手藝に専らなる所の女學生方の中には亦書に遠からんとて居る御方が幾人かありはしないかと思はれて急に注意たいと思ひかするのです。

教育上の所感

女高師 教授 藤井利譽

元來未熟なる上長らく田舎に居りし爲め都會の事物教育の事に就いては何等の知識がない然るに此會で何か話せよとの事につき實はお断りしたいのであるが私の話が皆様の利益にはならんでもお近づきになるの機を得たのであるからお話する事にした次第である。

田舎者が俄に東京に出て何もわからず轉任早く平素の業務も多忙であるから何か感じた事があつてもとりまとめる時間も少く何らの秩序も利益もない話である。

フレイベル會はかねて聞き及んで居たが如何なる會か實際の有様も知らず又幼稚園といふことについて専心に研究した事もないからそれ等に關してのお話はする事が出来ないから地方にての觀察上京後の所感など別に演題も設けずひきまゝとめて述べて見やう、



地方といつても極小範圍の事で廣く見たのではな  
いから地方の有様を充分にいふ事は出来ないが田  
舎の最低の程度の教育の状況に就いては多少述べ  
る事も出来やう、地方教育は日本の……  
教育の大勢から見ると都會よりも後れて居る事は  
確で其効果に於ても極めて微弱であるその効果を  
壯丁検査の時に調査して見ると地方は甚だしい。  
これは學校の教育の方法がわるかつたのか退學後  
の家庭や社會の惡影響の爲めかおそくは後者に  
屬する事であらう、  
その原因は那邊にあるかはとにかく地方の教育の  
不振は壯丁検査の時に郡視が出張してしらべた處  
でも明かであるこれが救助策としては補習教育を  
施す必要を稱へるものがあるけれども結局どのや  
うな方法を講じたとしてその原因を除かないうちは  
地方教育の効果はあがらないのである  
目下の日本の教育は歐米にもおとらず學說も實際  
も進んで居るのに何故に地方の教育がかゝる状況  
のもとにあるかを我々は心配して居るのであるそ  
れは地方の教師或は教育の當局者が東京より熱心

の度もひくゝ教育に對する見識も後れて居るから  
である、  
しかし私どもの見た處では教師も監督者も随分勤  
めて居るので實に眞面目なものである朝は早くよ  
り夜は火燈す頃に歸るといふ事は一週中一日二日  
ではないほとんど連日の事である  
かくの如く熱心に働いて居るのに地方の教育の効  
果のあがらないのはただに文字技能の上ばかりで  
なく道德的品性の點に至つても全く零になつて居  
るのではないかと思はれるまでになつて居るのは  
如何なるわけであらうか、  
その原因の全體はいはないがその一つを擧げて見  
れば地方の教育者はあまりに學說に従順で反抗心  
がなく見識が低すぎるのである  
爲めに教育の方法は主として東京に於ける諸大家  
の學說や實驗の結果が新聞雜誌などに現はれるの  
を見て直に盲從するのである地方の校長などの中  
には意見あるものがあるが輿論は新しい説を迎へ  
て校長の意見などを陳腐として取らない傾向があ  
るのであるこれは地方の人が進取の氣に富のであ



るともいはれるが私はさうは思はない、流行しない事を陳腐とするのは地方教育者の不見識によるのでこれが不振の大なる原因である、今日續々發見せらるゝ處の學說に従つてこれを實際に行つて見てもそれが短い時であつてはその効果を現し事は不可能であるし又かれらは何でも進んで取らなければならぬと考へて少時間にその新しい説をよむけれども充分にかみわけする事が出来ないのも又一の原因である、

すべて地方の教育者は都會に離れて居ても文字の上では離れる事がなく都の生活に向つてあこがれるのは自然の結果であるかく中央の人の研究の結果を取つて以て従ふのである

このやうな教育者によりて教育された結果はどんなであるかといふにかれらはよるべき所のない有様で容易ならぬ惡結果を兒童教育の上に来すのである即少しも成案の事がなく水草を追つて昨日は甲今日は乙といふ風に新聞や雜誌にかへげられた學說に従ふのであるから教育上に惡影響を及ぼすのである

そいういへば新聞雜誌は害のみ與へる様ではあるが又これは地方を開くのに大なる力をもつものである、つて若しこれがなければ地方は暗黒になるかもしれないけれども一方に於ては害のあることも明である故に東京に生活する人は其言行ともに注意して地方人をあやまらぬ様にしなければならぬそれで地方の教育研究會 同窓會 などには大がいに東京の知名の士を招きて話を聞くのを例とするとしてその先生の話を總て價值あるものとして彼等とはとり入れるのである其結果として往々先生を絶對に信仰して自己の行爲を律する様になる事はよく見る所である例へば今個人主義が主張され、其一年位は其説によりて支配されるのである此様に東京の先生の言行は勢力をおよぼすものである故に總べて中央の教育者學者實驗家は慎重の態度を取つてもらひたい然うされば或は地方教育の不振の原因は取り去られるかも知れないおそれ多いことだが十月十三日の 詔勅は極端まで地方人には影響をおよぼして居る學生が牛乳を飲むのも汽車通學するのもしけないといふ様になつて居る地



方はうの人ひとは一度ひとたびかゝる御旨ごしめを仰おほげば自己じこの考かんがへすて  
極端ごくたんな處ところまで實行じやうぎをつゞけるのであるまた昔むかして  
高崎たかざき正風せいふう男おとこが一徳會いちとくかいを起おこして勸語くんごを地方ちほうに遊説ゆうせきさ  
れた時は夏なつのことではあり七十歳しちじゅうさいの高齡こうれいを以もつて地  
方ちほうまでこられたのは多おほとせねばならぬが其時そのときに其  
地方ちほうの新聞しんぶんにこゝにいふことが出でて居ゐつた「高崎正  
風男たかざきせいふうおとこに與よふるの書しよ」といふ題だいで

男おとこが遠とほく地方ちほうまで來きられしは感謝かんしゃにたへぬ所ところな  
るがそれよりも中央ちゆうおう殊ことに上流じやうりゆうの教育けいようを重おもんぜら  
れたし地方ちほう人の鏡かがみとなるべき東京人とうきやうじんが詔勅みよとくの御  
趣旨しゆしを奉戴ほうたいされたならば地方ちほうに及およぶことはた  
やすいのであるふ」といふのであつた、

これは或あるは失禮しつれいならんが一面いめんの眞理しんりはあると思おもふ  
教育けいようの學說がくせきばかりでなく中央ちゆうおう人が風教ふうけう上の事ことも注  
意いしたならば地方ちほうでは教育けいように従したがふものが遊あそび  
仕事しごとでなく思おもて居ゐるのであるから教育けいよう効果かうくわもか  
すから表あらわはれるであらふと思おもふ今日の世よの中なかは政  
事じ經濟けいぎ教育けいよう何なんれも混亂こんらん時代じだいであるから非常ひじょうな決心けつしん  
が必要ひつやうである或人あるひとが  
日光にかりくわうの大谷川だいたががはに洪水こうすいのあつた時に川かの中央ちゆうおうにあつ

た石いしの爲ために濁流だくりゆうが兩分りやうぶんされたのを見みて教育者けいようしや  
たるものは此新このあらたしい學說がくせきの百出しやうしゅつする時代じだいにたつ  
て大谷川だいたががはの石いしの如ごとく堅かたい精神しんしんを以もつてその中なかを切  
り開ひらいてゆかなければならない  
といつて居ゐるが如何いかんせんかれらにはその濁流だくりゆうを兩  
分ぶんする見識けんしきがないのである希まれくばその兩分りやうぶんさせる  
前にその源泉げんせんたる都會とわいを清きよくしてもらひたいもの  
である

●アフバートーヴエン風俗

▲ベトーヴィンの男子おとこ 荒夫あらうの次に紹介かいすべきはベトー  
ヴィンの男子おとこなるが、色更いろさらに黒くろく素足すそ多おほしといふの外ほか、服  
装しやうも容貌らうばうも、大に荒夫あらうと異なる所ところなし、余あは佛蘭西ふらんしアグ  
エニユーにて、四名なむのベトーヴィンを見みたりしが、他ほかは  
皆椅子いすに凭よるにも拘こらず、彼等かれらのみは地上ちやうじやうに踞坐きよざして談  
話だんわしつゝありき、天幕生活てんぷくしやうの習慣しやうはんは、彼等かれらを以もつて椅子いすに  
依よるよりも、直接じか天地てんちを以もつて衾枕きんしんと爲なすの快たのしみを感じかんぜしむ  
▲子こを脊負せふふの習慣しやうはん ベトーヴィンは同じく回教徒かいきとなる  
も其婦人そのにんは一切覆おほ面めんせず、蓋かきし飄泊ひやうぱく的生活しやうと覆面おほめんとは兩  
立たせざるが爲ためめならん歟、ベトーヴィンの婦人にんは米國まいこく  
の赤印度人しやくいन्द人の如ごとく、其小兒そのせうにを脊負せふふ、余あのケアワンにて之  
を見みたるときは、日本にっぽんに歸りたるやうに感じたり



# 幼稚園の手技と小學校の手工

藤 五 代 策

現今幼稚園で行つてゐる手技の内の、色板排べ、粘土細工、折紙、組紙、縫取、豆細工、切貫細工、等の卑近なる細工は小學校の一二學年で行つてゐる、手工と少しも變てはゐない、それで幼稚園からずつと小學校に這入つて來た兒童に向つて、夫等の手工を教ふるのは大層取扱ひに困るのであります、殊に尋常一學年の初歩に於て、幼稚園より這入つた兒童と家庭より其のまゝ這入つた兒童とが入れ混じつて居る場合には、尙更迷惑する事が多いのであります、例へば折紙細工（又疊み紙とも云ふ）で兜の折り方を教へ様とするとともに、家庭より這入つた兒童は何にも初めであるから、早く習いたい早く覺へたいと、非常な趣味と研究心を以て、歡迎して居るにも係はらず、幼稚園の兒童は先生之れは、幼稚園で習ひました、僕は幾ッ

折つてありますなどと騒ぎ立て、趣味も無ければ研究心も起らぬ、御茶の水小學校第二部の一學年に手工を教ふるときは、いつも此の調子で、實に閉口して居る次第であります、して又それ等の兒童が追々と上級に進みて行くに従つて、其の兩者の成績は如何にと推參して見ると、是は又驚いた、意外な成績を現はしてゐる、總じて家庭よりそのまゝ、這入つた兒童は殆んど中等以上で、幼稚園より這入つた者は、多く中等以下であることを認めめたのであります、して見ると手工ばかりでなく唱歌遊戲その他に於ても、幼稚園の保育法と小學校の教育法とは、何とか改善して兩者の親密なる連絡をとる必要を認むるのであります、而して此等の諸科目の内にて、最連絡ある者は手技と手工とであるから、茲に兩者の關係に付き聊か意見を述べたいと思ひます、

手技と手工との連絡に付き、大凡三つの説があり  
ます、  
一、現今小學校の手工にて教へつゝある、色板排べ、粘土細工、豆細工、組紙細工、切貫細工、等



の幼稚園に關係ある細工の内より、各細工の内、の稍卑なるものは、全く幼稚園に割き與へて、玆に幼稚園に課する手技の細目と小學校で教ふる手工の細工との劃然たる範圍を定むるにありと云ふ説であります、例へば粘土細工に於いて球、お供へ、卵等の如きものは幼稚園の細目に入れ小學校にては、今少し高尚にして學理に當める細工を課し又折紙細工にては、兜、水鳥、墓口等は幼稚園に譲り小學校にては折鶴、蛙、燕子花等のものを教授すべしと云ふ説であります、

二、幼稚園の手技と小學校の手工とは、何れの細工にしても其の卑なるものは、幼稚園と小學校とに於て之れを教ふる上に、區別するの要はない兩者共に同様のものを作らしめて可なり、併し兩者の取扱ひには最注意せねばならぬ即ち幼稚園にては常に自由製作的に課して、作らざるよりも、遊ばすことを主とし、小學校手工にては、遊ばすにわらず作らすることを主とせねばならぬと云ふ説であります、

例へば幼稚園にて粘土細工を課するには、粘土や、細工板、簞、雜巾を與へておいて、何んでも作りなさいと命じて、遊びつゝ何人でも似た形が出来ればよい、又出来なくても、小供が怪我せぬ様に泣かぬ様に遊ばばよいと云ふのであります、

今前者と後者との説をきくに、勿論後者が正當で幼稚園の保育目的に適合して居ることは、誰人でも判斷が出来るのであります、併し只今の幼稚園保護の任にある人々が、皆悉く後者の説の様に保育して居るが否か、恐らくば小學校の一學年生活に手工を教へる様な取扱ひと同様に教へて居はせないか、夫等の點に付いては大に熟慮を要すべき問題であると思ひます、殊に折紙の細工や、紐結びの様な細工は、その卑なるものに至りては幼兒の造つたものも大人の造つたものも同じ様な成績が得らるゝ上に、其の製作の方法も一通りは似て居る、幼稚園の小供に如何に教ふるかと謂つても、兜を折ることや福助を折ることは教へねば出来る筈がない、又此れを應用して他の者を折ると



云ふことは出来ない、それで自分の考へでは全然後者の説のみに従ふことは出来ぬ、或る細工に限つては小學校と同じ様に教へ込むべき者と思ふので、前説と後説とを折衷したる處の方法によりて幼稚園の手工と小學校の手工との連絡をとりたいと考へるのであります、

### 三、兩説折衷の方法案説

此の折衷案説に従ふときは、先づ小學校の手工の中の、色板排べのみは、全然幼稚園に譲りたいてと云ふのであります、蓋し餘他の細工は、平面とし立体として一の纏まつた形に作らるゝけれども、此の色板排べのみは、僅に排べるばかりであるから小學校の手工としては餘り面白くない、幼稚園の棒排べ、環排へと同様に取扱いふべきものであると考へるのであります、併し反對論者はかう云ふであらう、凡て物体は形と色とより成立してをる、色板排べはその形の基本となり色の基本となる事柄を教ふるのであるから、手工の出發點は、色板排べよりせねばならぬと云ふであらう、理論は尤千万であるが、

その基本形たる三角、四角、菱圓等のことは他の切貫細工や折紙細工、豆細工などでも教へらるゝであらう、又色に關すること、折紙細工、切貫細工、組紙細工等で教へらるゝから、是れも尋常一年生から早く教ふる必要はない、米國などでは色に關することは尋常科四學年から教へて居るではないか、斯くだ互に意見を闘はしめて見ると、自分も此の色板排べだけは是非小學校から取り去つて幼稚園に譲りたいのであります、

次は折紙細工のことであるが、是れは前にも述べたてかい通り、至て平易なる折方丈は、全然幼稚園に譲つて、小學校には稍程度の高いものを課して、兩者に於て折るべきものを判然と區別しておきたいのである、その他の粘土細工、豆細工、組み紙細工、切貫兩者共同の物を作らしめて小學校に於ては尤教育的の取扱ひを主とし、即ち手工に由つて簡易なる物品を製作し、眼と手とを練習し兼ねて勤勞の習慣を養ふ様に仕向けたい、然るに幼稚園にては何を作つても



よいから、保育的に取扱かつて行きたいのである、即ち小供の身体の發達に留意して、悪い習慣のつかない様に、よく遊ばせることを主として、物を作らせたいのであります、

### 世話女房の覺悟

へ夏人の収入は二十圓平均  
高等女學校の卒業生達は、お嫁に行くからには、赤ん坊をおん貢してお米を磨くと云ふ覺悟を有つて居らねばならませぬ、何故かといへば其の婿様になるべき人は、年齢からいへば廿五歳乃至三十歳位、又職業からいへば官吏更ならば下級の判任官、軍人ならば尉官實業家ならば手代位のもので、ヤツと職業に就いたばかりのが多く、其収入は大學卒業生でも高等商工業卒業生でも士官學校卒業生でも、先づ二十圓位の所が普通でもあるからです、これだけの収入で以て如何して立派な生活を営むことが出来ませうか今日高等女學校の生徒達が現に住まつて居る家は既に成功して居り、又は半ば上進して居らるゝ父や兄の家であつて、何事も十分にして居る所から、解怠を生じて、己れも直にお母様やお姉様のやうな身分になりたいと云ふ様な希望を起しませうけれども、是は自己の身上に就てよく考へなければなりません。(なでしこ)

## 幼兒の遊戲は如何に指導すべきか(承前)

後藤 ちとせ

### 指導遊戲

指導遊戲は談話、唱歌、手技と共に保育事項中の一大要素で御座いますから其保育上の効果も心身發達兩方面に向つて大なる事は申す迄ありません、まづ身体上には血液の循環をよくし、呼吸作用を活潑にし、營養皮膚、神經の諸系統の機能をすゝめ、姿勢を正くし動作を輕快にし以て身体各の均一圓滿なる發達に資すると共に精神上には感官を練習し五官のはたらきを鋭敏にし注意力想像力を養ひ判斷力を練習する等心的活動を助長し更に道徳上には規律服從敏活の良性を養ひ清廉潔白衆と共に樂むの美性を養ふ等がまづ其の主要なるものです。但し例の保育者の技量如何により此の效果にも差違を生ずる事ですから如何にせば是等の價値を遺憾なく收め得らるべきか、追次御話したい



しませう。  
女子高等師範學校の遊戯室は幼児百二十名ありま  
すのに室の廣さが五間に八間即ち三十五坪で平素  
教生の參らぬ折は別段狭くはありませんが室内運  
動會(後に説く)その他の催しをやりて母親達を招く  
とか或は教生が數多く參りますと今少し廣ければ  
と思はれます。普通は百名に對し五十坪位が丁度  
宜しう御座います。併し師範學校或は保姆實習  
生の練習をも兼ねて居る幼稚園では今少し廣くせ  
ねばなりません。組が幾つに別れて居ましても  
毎朝各組此室に集り大きいのも小さい子も皆とも  
く顔見合せてのどかなる朝のうたを歌ひ今日  
一日の樂しさを豫想して、こゝに保育を始めます  
如何に樂しいことで御座ります。又各組別々に  
遊戯時間には廣く此室で活潑に自由に運動が出來  
雨天の日には自由遊びの場所として驅けまはらせ  
五節句三大節フレイベルの誕生日長休みの前後等  
には各組一同こゝに集ひ此度は一の組か次には二  
組かと云ふ様に代るゝ主人役となつて何かの催  
しをなし他の組をお客に呼んで面白く一二時間

を過すことは幼児にとつてどんなに樂しみなもので  
しやう。女高師の附屬幼稚園では近頃此種の幼兒  
會合が盛んになつて來まして三月三日五月五日等  
には遊戯室の正面に雛人形武者人形等を飾り何時  
も一の組が主人になつて他組をよび盛んに唱歌し  
遊戯しさては餘興等平日致して居る凡ての保育事  
項を應用して趣味ある遊びを致します。此種の遊  
ひは遊園に於けるりよも室内で致す方が家庭的で  
且つ面白味の深いことです。から成る可く遊戯室は  
廣いのを望みます。  
斯く遊戯室は色々に使はれますので保育中最も樂  
しい場所ですから幼兒數に相應した廣さを有し高  
さ長さの釣合を取り長方形に作り(但し長方形と  
申して横縦の割合がありませうが樂器を置く場所  
を縦にとつて残りが正方形位にするのが見よい様  
で御座います。光線の射入を適度にし空氣の流通  
をよくし多分は安全なる暖室法で普通の室よりは  
稍低目に暖めかくが宜しう御座います。是れは遊  
戲の際にはふだんよりも身体が暑くなつて居ります  
し又多數集る折は自然室が暖くなるからで御座



います。室内には運動の妨害になる物、例へば角のあるものとかが倒れ易きもの等を置かず掃除は十分に行届かせ殊に床板は奇麗に拭はせて置いて幼児等が散々駆けまはつても塵埃の立たぬ様にして置く可きです。周囲の壁には花鳥風月或は愛らしい小兒の繪や昔話の繪畫等幼児等が之を見て不識智を研ぎ徳を養ふ類のものに掛け自然界のもの等は四季折々に掛けらるるが宜しくフレール先生の肖像畫是れ一枚正面に保育者の手づからものした押花、小兒の持つて來た草花等も飾り付け美的に裝飾されてゐるのが宜しう御座います。遊戲室の床上には必ず或圓は方形の線をひき、未だ行進に巧みならざる幼兒等をして其線をたより歩行の練習をさせるが宜しう御座います。普通線の引き方は次の様なが多く御座います。但し圓形ばかりでは直線行進の練習を欠きますから其邊をも考へる必要がありまゝす。右は經費が充分にあつた場合の話ですが、若し左様參らぬ地方では小學校の昇降室と雨中体操場とをかねた様に並用するもよろしかる可く玩具室と

標本室を特別に設け得ぬ所では遊戲室の裝飾を兼ねて是等の玩具標本等をうつくしう整頓し硝子の戸棚等に藏めなどして室のまはりに備ふるもよろしう御座います。

### 遊戲の教へ方

一新しい遊戲を教へる場合小學校教授に於て豫備が提示に先立つ様に幼稚園遊戲に於ても新材料はなる可く豫備的遊戲をさせた後にやらせるが宜しく豫備になるものが例令な場合でも入室後直ちに新材料の提出に掛けるのは未だ子供が外遊の名残に動かさつゝあつて注意が一點に集まつて居らぬ故新材料收得上に不利ですから新材料は必ず何かで幼兒の心を「遊戲をするのだ」といふ氣にならしてから説明し始むるがよろしう御座います併し此際豫備遊戲があまり長すぎると子供の方が疲れた頃に新材料が来る様になりまゝすから其邊は適當な注意が入ります。

二材料の長さも材料の長さものならば數段に分ち其時間に幼兒等が十分了解し收得し得可き丈を確實に收得せしむ



可く多量の材料をばんやり教へ込むのは却つて不得策です。

三複雑なる遊戯  
複雑なる遊戯を教へんとする時に之を幾通りにも

分ちて其部分を十分に教へ込んだ後之をひらまめて完全な形に移すのが宜しう御座いませう。

四新遊戯を教ふる際の説明の仕方

説明の仕方はなる可く具體的に致した方が幼児に尙了解し易う御座いますから言葉でいて細かに話し

し聞かせるよりは形即ち其遊戯の模範によりて示す方が早わかりで御座います。一例を上ぐれば兩

腕を肩と水平に左右に延ばさせ様と云ふ場合に保育者先づ兩腕を正しく左右に伸して見せ「斯うな

さい」と云ふ方がくどくしき言葉の説明に勝る様な類です。説明に用ふる言語は簡單にして順序

だち要點を明かに話して幼児をして了解に苦しめぬ様注意す可きこと

五反復すること

新材料のみ幾回となく繰り返し其練習を終らんとするには一事に疲れ易い幼児にとり苦勞多くして

効少き事です。から適宜已知の遊戯をとり混ぜて一回の遊戯時間を充さなければなりません。

一回の遊戯時間に於ける遊戯排列法  
一緩より急に、急より緩にをはる様排列すること

二一回の遊戯時間は幼児の年齢、新教授と復習との割合等に因りて短かきは十五分より長きは三十

十分位の間に適宜定む可きこと、  
三變化の附け方を工夫すること

四一遊戯より他遊戯にうつる具合を滑かにすると  
五一遊戯の経續時間は幼児の興味の度合に因りて

斟酌するを  
六一一回の遊戯中には身體の各部均一に運動せしむ

る様排列す可きこと  
遊戯訂正法につきての注意

何時も無意味に同じ遊戯を繰返させられるよりは  
相當な訂正を加へられて昨日よりは今日、今日よ

りは明日と漸次に進歩して行く方が遙かに愉快で  
ある事は子供も大人も同じ事です。で幼児等に對

しても正誤訂正を施して其進歩を計ることは新授  
と同様に大切なことで訂正がなければ進歩がない



と申しても宜しい程で御座いますから是に關して注意條項を少し許り御話致しませう。

一、子供は訂正するものを喜ぶものです。

凡て子供の遊戯を訂正してやりますときには心持よき言葉を以て親切に其誤れるを話してやる可きです。もし小言がましく申しますと幼児には誹責する様にとれて遊戯は忽ち仕事となり課業となつて幼稚園遊戯の本旨たる愉快に遊ばせるといふ心を缺く事になります。

二訂正の語は賞賛の辭と並び發するをよしとす。

誰れでも賞められるのは嬉しく其言葉にはげまされり下手なりと云はるゝ時は落膽失望しかちなもの子供は殊にさうで御座います、で訂正の際には同時によき點を賞めて此處は大層よくなつたから今少し此點をおなほしなさいといふが宜しう御座います。

三、同一の誤りが數多く繰り返さない中に早く訂正するが宜しう御座います。悪い癖がついて後はなかく正しきに移りたいものであります。

四口で訂正した許りで其實地をなほさず、明日か

ら、かうしませうなどいふ訂正法は幼児には殆んど無効で御座います。幼児は凡て其時きりで前時に云はれたことを次ぎの遊戯の時間まで覚えて居つて獨りでなほすといふことは到底出来ぬとですから訂正の語を發したら必ず之に伴ふ實習をやらせて身体によい習慣をつけておくのが要用です。

五訂正が必要であると同時に、いつも陥り易い誤は其遊戯をなすに當り豫め注意してやつて其誤を未然に防ぐ工夫をもしなければなりません(續く)

●吾人が体量の變更

或る人は時々体量器械にて其體量を秤つて數ヶ月前の體量に比べて多少の減量を見たと忽ち眉を蹙めて我健康に異狀が生じたのだと心配するが全體吾々の體量は刻々に變はつて居るもので、飲食したる時の外は吾人は常に多少は減量して居るのである。而して其の増減は略一定して居る、即ち飲食の時には増し運動後汗後は減量する、米國人某自身の科學的試驗に依ると朝食前には氏の體量は百五十磅、晝時になると、十四磅減じ二時頃の閑食にて又二磅増し其から漸々減量し始め、午後五六時頃に正餐を齎した時には二磅一磅を増して、氏に取りての最も減少するのと夜中睡眠中には吾人の體量は著しく神及及び肉体的勞働が吾人の體量を減することは少くない。



# 婦人百話

樂 天 子

一、歐米婦人理想の夫  
一英字新聞の記載によれば、歐米各國に於ける婦人の男子に對する好みは、國に依りて各異れり、即ち英國の婦人は風采堂々として威嚴ある男子を求め、佛國の婦人は額の美麗にして愛嬌ある男子を求め、獨逸の婦人は律義眞實なる男子を求め、西班牙婦人は氣慨なき男子を嫌ひ、伊太利婦人は詩的男子を好み、露國婦人は歐州諸國にて野蠻人といはるゝ好き男子を好み、米國婦人は資産多き男子ならばその位置の高下を論ぜず好んで之と縁組せんことを願ふといふ。英國の實用的なる、佛國の虚飾的なる、露國の野蠻なる、米國の拜金主義なる、皆よくその國の神髓を現はしたるものといふべきなり。

二、支那婦人の纏足  
纏足は支那婦人中、漢人種の間に行はるゝものに

して、彼等に於ける一種の人造美人法なり、その由來は五代に於ける南唐李後主を以て源とせるもの信すべきに似たりといふ。即ち後主の宮媚窈窕なるもの、善く舞ふを以て名あり、後主即ち帛を以てその足を纏ひて纖小ならしめ、屈げて新月の状をなさしむ、これより窈窕に倣ふもの漸く多く遂に上下これを美として、老若貴賤皆これに比するものを云ふ。  
纏足の惡習は貴人に於て最も行はれ、足彌々纖小なれば彌々以て美人となして、その崎足の大切なること、歐米婦人の乳房に於けるが如し、故に通常にありてはこれを我が夫婿に示すの外、決して他人の目に入れしめず、他人若し強ひて迫りて無理にこれを見んとせば、婦人は羞を含みて情あるか、辱を怒りて罵るかの二途に出づるの外なしといふ。  
既に足を秘して人に示さざるが故に、其着くる所の纏鞋必ず自家の手を以て之を製せざるべからず因て婦人は貴賤の別なく、製鞋の事を解して、他人をしてその長短を知らしめず、而して纏足の形



狀は地方によりてその流行を異にし、天津には天津様あり、漢口には漢口様あり、千差萬別にして一定せず、要するに寛にして短なるもの、窄にして長なるもの、二種に大別することを得べしといふ、例令國の習慣とはいへ、西洋婦人の腰部緊張と共に、天然の美に背くもの裝飾なれば、苟くも開明國の裝飾的美人法としては洵に好ましからざることなり。

### 三猶の風俗

▲猶の婦人は大肥を好む 昔し楚王は細腰を好みて、宮中には餓死多しと傳へられしが、夫れとは全く反對に、此地方の猶太婦人は、皆太りてコロコロするばかりなり、其路を行くは、宛も大臼の轉がるが如し、蓋し此地方の猶人の間には、婦人は太とる程夫れだけ美なりとする習慣あり、去れば婦人は皆橄欖油を飲み、肥滿する食物を取る、これ荒夫間には、皆無なる習慣なり、

▲カフェ、ダンス 余は一フランを投じ、土人の珈琲店に入り、猶婦人のダンスを見たるが其衣服には袖なく、歐洲婦人の著しきものと相同じ、而して寛濶なれども歐洲男子の用ふるものと同様なるゾボンを穿つ我國のモンペと相似たり、故に荒夫

及び猶の婦人の服は、上部歐洲婦人的にして、下部は歐洲男兒的なり、前より見るときは、左程見苦からざるも、後より見るときは、嘔吐を催さんとする（外出のときは白布を纏ふを以て之を見るべからず）舞踏するに方て、無暗に腹を動かすは、其特色なるべしと雖も、其調子は何處までも歐洲的なり、然れども男子と手を取りて舞はず、且つ舞ひながら歌う處は日本的なり、三人の離し方、一人はバイオリン（元と印度より東西に傳はれり）を奏し、二人は鼓の如く皮にて作りたるものを打つ、是れ亦半東洋、半西洋的なり、歐洲人が北阿、阿刺比亞の世界を指して東洋的といひ、余には半東洋的、半西洋的なるは、次回の通信に明記すべし

▲猶の結婚 猶の結婚式は、中央の一段高き處に、花嫁腰を掛を玉ふ、去れどもゾボンを穿つを以て、遠くより見れば、男子の如し、花嫁の左に立つは、花嫁附處女にして、其右に立つは花婿なり、ラバイ（猶太教の先生）其前に立ち、親戚、故舊之を圍み、以て式を擧ぐ、歐洲的といへば、歐洲人は首肯せざるべきも其主義は全く基督教と異ならず、荒夫の結婚に至りては、余未だ詳にせず、猶は一夫一婦なれども、荒夫は金さへあれば、幾人にも金屋に阿嬌を貯ふ



# 烈公の家庭教育

芙蓉子

水戸烈公が千古の名主にして、其の識見の超絶な  
るは、世人の熟知せる所なるが、左の一篇は嘗て  
江邸にありし頃、留守居役某に與へて、公達の  
驍方を心得させ給ひける書簡の寫なり讀み來り讀  
去り以て公が家庭教育に於ける英見達識を窺ふに  
足る、世の父兄たるもの、須らく眷々此の主義を  
服膺して可なり。

餘冷の所、其地子供等縁の間にも無障一段の  
事に候、去廿七日は余四啓事大町神勢館へ行候  
よし、是よりは步行又は乗馬にて度々行候が  
宜しく、兎角子供歩行いたし候がよろしく、朝  
も末明より起き水にて顔を洗ひ薄着にて庭など  
へ出て、子供相應いたづらいたし候がよろしく  
候、風引き候へば、其の節あたゝり候が宜  
しく、風を引き申すべく家などとして、用心致させ  
候は以ての外に候、兎角武士の子は、手づよ

く、手あらく成長致し申さず候ては、追々成長の  
上公家、武家、町人の様に成行、天下の御爲め  
を致候様に相成らず、何分にも手づよく身体  
を幼年より鍛てそだち候様いたし度候、文武共  
出精致させ候がよろしく、文武を勵ませ夫にて  
死候程の子は、不憚候へば、死候ても不苦候、他  
へ養子に遣はし候ても、柔弱にて文武無之者に  
ては、水戸家の外聞不宜候、誰にても一度  
は死候者故外聞不宜子供成長いたし候  
位に候は、死候方はるかに勝り申候故、表  
の附の者並びに伊勢等へも申聞候て、前文の通  
り、手あらく仕立候て、文武を勵ませ可申候、  
奥にても附の者聞候て、讀書のさらひ等は、よ  
く致させ可申候、書は文武の稽古前文申  
す如く、神勢館、又は好文亭へ歩行いたし候  
が、よろしく、子供の大人の如くに致し候は、  
身こなれあしく、不レ宜候（中略）余四啓初毎朝  
の水は、只今にてもあび候事と存候、若しあ  
び申さず候は、無理にあびせ可レ申候、さるか  
はり湯はつかはせ申す間敷候事。



# 子供と繪 (一)

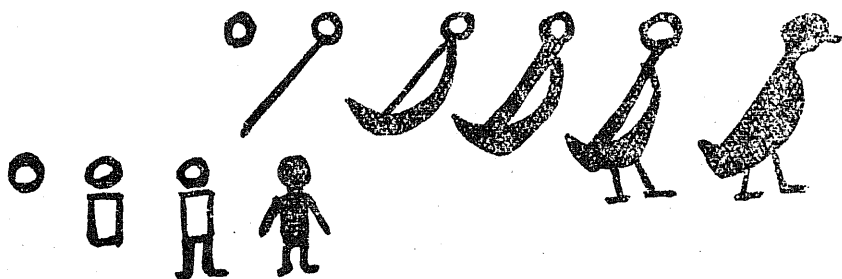
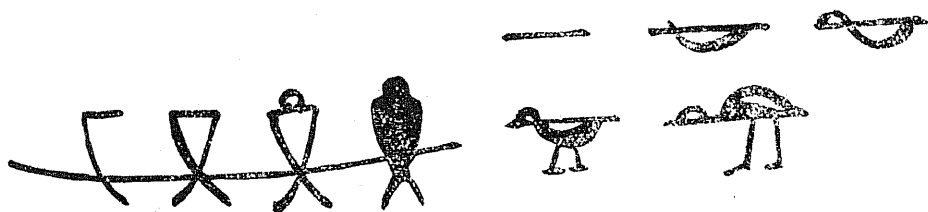
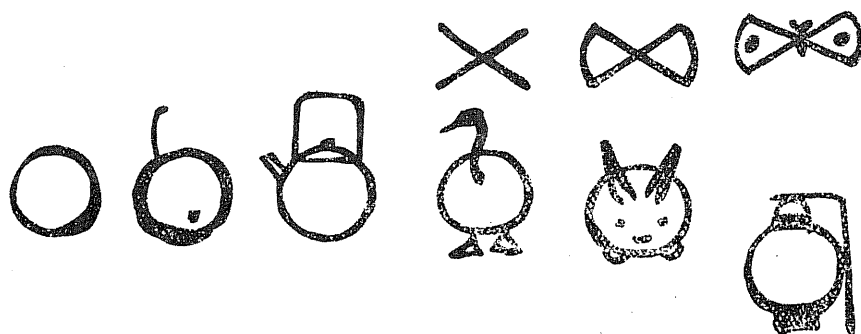
野 生 司 香 雪

凡そ人は生れながらにして美なる物体に親まんとするの趣味をもつと云ふことは何れの國何れの人種を問はず皆なこれ人間固有のものである、されどこの先天的に具へて居る美感は極めて幼稚なものであるがこれを發達させるには是非教育の力を以てせなければならん、そこで子供の時からこの美感を養成する方法としては繪を以てすることが最も簡便なのである、この繪の練習は一ツに趣味を高尚ならしむるのみならず凡て物の觀察を緻密ならしめて記憶方を養ひ想像力を練ると云ふことが出来るのである、この繪の練習は一ツに趣味が子供の時代から其作用を促して置かないと大きくなるに従つてこの創造的想像力を養成すること、は次第に六ヶ敷なるから子供の時より繪に親しませ之を畫くの能を得せしむると云ふことが最も必要だ乍而之を教育する其の方法の如何によりて

は稍々もすると子供をして畫くことを忌むと云ふ傾向の弊に陥ることがある蓋し普通の圖書教授法の如く臨書寫生畫等のものは或筋肉神經の興奮によりて一定の運動を要さざれば其看取せる物体を畫くことが出来ないのであるから五六才乃至六七才の子供には先づ不可能と云ふてもよろしい、そこでこの六七才の子供に畫かしむる繪と云ふものは子供が常に喜ぶべき物体の其特徴を捉へてこれを極單易に畫かせる様に努めなければならん其方法としては子供の意識の上つて居るところの材料を捉へて其の順序は子供の心意の働きの状態に従はなければならんのであるからして一定の方式には依らずして子供の視覺にありて感ずるまゝの物体を隨意に畫かしむるのである而しながら子供はこの感ずるまゝを畫くの能極めて不完全なれば之を畫くべき方法の極單易なるものを常に教示して置くことが必要である今これを圖に依りて述べましや

(次頁の略畫参照)







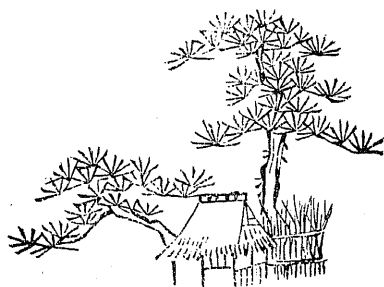


# お正月のお菓子

● 玉子パン 久 仁 子

お正月は小供にも大人にもたのしくうれしい時で  
歌留多の會雙六の遊びに手も足もいそがしいので  
す、今茲にお正月のお菓子として御話申上るのは  
わけなく出来、上品でおいしくてお子様にもお老  
人にも適したあつさりしたパンなのです先づ玉子  
一つを割りよく泡の立つ迄かきまわし其中へ上等  
のメリケンコを十匙ほど入れつぶのないやうによ  
くかきませ水盃に一杯程も入れ猶白砂糖を適宜  
に加へてどろ／＼のゆるさになし其中に「カリン  
ズ」之はパンの中に入り居る葡萄の事にてパンを  
製造する家にはあります五錢も買へは六七度使  
へます）を二十粒も加へ舶來の（ペーキングボ  
ーダー）之も大概の西洋食品店にあり價はたしか  
三四十錢でかなり長く使へます）之を茶さじに山

に一つ入れてよくかきまわし置き目ざるに清き布  
巾を敷き其中に流し釜に水を半入れみそこしにて  
も何にても其釜適當の大さにて先の目ざるに水の  
届かぬ程のものを入れ其上に目ざるをのせ桶様の  
物をふたとし二十分程ふかして出し布より取り適  
當に切りて食するなり、之にレモンなどの香料を  
入るれば中々風味よく客にも出さるゝものともな  
る。







新年の句

鹽野奇零

摘取れは雲こぼるゝ若菜かな  
 書初や袖美しき女の  
 淡黒に春の句ひや筆初め  
 事もなく平凡にして三ヶ日  
 初東風や霞晴行く東山  
 初東風や春日の鹿を遠近に  
 幼兒が聲一ぱいに御慶かな  
 屠蘇の香をつけて疊むや白扇  
 家内中無事に揃ふて維新かな  
 書初の一と間に梅も句ひけり  
 蓬來や神代めきたる飾りもの  
 片言に出来てうれしき御慶かな  
 若水にさすや今年の星明り  
 書初や親は机の前うし初め  
 老てなほさかんなりけり弓初め  
 錦着て故郷に拜す初日かな  
 くもりなき御代の鏡や初御空  
 初日影千年古りし雪の松  
 唐崎や初日に松の雪景色  
 物萬うれし初日に雪の松

○ 加藤たまも  
 この年もまた豊しるしにや常盤の松に雪はふりつゝ  
 老松も小松も雪のかむりして年むかへぬる清見がたかな

田中ちか

うらゝかに初日照り添ひ老松は雪のみ空に色まさりけり  
 この心永久にまもれと大君は雪の常盤木はつよみにや

霜しろき朝をかきねに句ひけり賤が伏屋の白菊のはな  
 物おもふ淋しき宵を哀にも妻こふ鹿のこゑきこゆなり  
 明け六つの鐘は我胸ひし／＼とうつ苦しき夢たえ／＼に

高橋白雪

二見浦しるき帆あまた朝の日に背波すべし影しづかなり  
 まろかなる月の光りに露うけて笑めるが如し河原撫子  
 もろ草に絃かけ絶えず琴をひく夕風の野に舞ふや月姫

吉田玉花

やさ眉に亂れ合ひける白萩の露の涙のひや／＼かき世や  
 霜しるき夕べの月に古里のもらひ乳する兄きみ思ふ

新年やみどり小松は雪を澄て  
 千歳榮えびの色まざりけり

白妙の冠た  
 彩雲の上は年むかへぬる

投稿 隨意  
 伊勢白子局區内眞宮宛



雜錄

●横濱市に於ける本會支部の設立  
 中の幼稚園關係者並に有志父兄等に因つて組織せられたる同會は從來毎月一回本會より講師を招聘して講話を聞き熱心斯業の爲めに研究せられつゝありて遠くは毎回儀須賀邊より多數人の參會者ある程なりしが頃日規則を改正し本會の支部たらしめんとて有志者奔走中にて入會者既に百名に近からんとし居る由、成立の曉には該支部經費の幾分は本會より補助する筈なり。  
 地方にて支部設立の御希望ある處は本會は前項同様出來得る限りの便宜を與ふに躊躇せざる可し。科學的幼兒教育思想普及の爲め篤志なる諸君の御奔走を希望す。

●本會開設心理講習會  
 豫て本會にて開設し居る高島平三郎氏の應用心理學講義は一と先づ舊臘を以て完結を告げかりしが、會員中熱心なる希望者續出し重ねて一層詳密なる講義を聞かんと發議

するものあり、因つて去月十五日有志の相談會を開きて種々熟議の上本月より三月迄を一期として幼兒期に於ける心理の詳説を乞ひ更に四月より七月迄の間を二期として殘餘の詳説を乞はんことに決定し目下準備中なり。前回の講習に出席の期を得ざりし諸姉並に更に繰返して此興味ある研究を遂げて幼兒教育上に一段の光明を得んと希望せらるゝ方々は本誌裏表紙内側なる廣告御一覽の上至急御申込あらんことを望む。

●質問者に注意す

毎號表紙裏にも記載し有る如く本會は會員並に讀者諸君の便宜の爲めに種々なる質問に應答することとを一個の事業と爲し來り常に手數と時間とを惜まず盡力しつゝある所、近來質問者諸君にして往々宿所肩書の明細ならざるものありて折角の返書も無駄に記者の机上に舞ひ戻ること尠なからず是は實に記者の遺憾のみならずと存すれば爾今質問さるゝ方は切に御注意を望む。



# 三つの願



と　　よ　　子

さても昔く、或る年の御正月のこと、天の神様は今日は一つ人間の様子を尋ねて遣らうと思召して、一人の御家來を貧乏らしい旅人の姿さして、下界に遣りました。神様の御使は町から町へとぶらりく見物をして歩いてあそこの太郎さんは何をして居るか、此處の次郎は此頃急に伶俐になつた様な、時に向ふの千代子さんは何をむづかつて居るのかしらなどい方々の子供の様子を見てだん／＼と町はづれに出ました。是から次の町迄は却々遠いので急いですたくと歩いて行きました。が、其中に日は遠慮なく暮れ掛つて見ればあちこの木の蔭、藪の間から田舎家の燈火がちらつく

様になりました。旅人になつた神様は「扱て、何處か宿屋のある所迄早く行きたいものだが」と足を早めて行くてをふと見ると向ふの曲り角に向ひ合つて二軒の家がありました。近寄つて能く／＼見ると幸ひ何方も宿屋で何れも今夜は別段の御客さまがないと見えて誠に静でありました。神様は

「はてな、何方へ宿つたものかしら」と考へながら見ますと右の方は大層大きな立派な家で御座敷も奇麗そうですが左の方の家は家も少さし、かまけに草茸のきたない家で宿屋と書いてある入口の障子も煤けて憐れげなものでした。そこで神様は右側の大きな奇麗な宿屋へづか／＼と入つて行つて

「もし／＼、今晚は」と云ひますと奥から立ち出でた亭主らしい男は今入つて來た旅人のきたならしい姿を一目見るや否や

「エー、御客様、今晚は誠に御氣の毒様で御座いますが生憎御座敷が皆ふさがつて居りまして御止め申す所が御座いません。



へい、誠に何うも御氣の毒様で。向ふの宿屋へ御出で下さいませれば多分御宿め申すで御座いますせうへい」と一人で喋つて一人で返して居りました。神様は仕方がありませんから向ふの宿屋へ入つて行つて

「今晚は、一つ御厄介になります」と申しますと飛び出して來た亭主は小腰を屈めて

「是れは、お客さま能うこそ御出で下さいました。無かし御疲れで御座いますせう。唯今御すゝぎを差上ります。何うも御覽の通りのあばら家で御宿め申す御座敷とて別に御座いません様なことで誠に御氣の毒様で御座いますすが何うぞ御遠慮なく御休み下さいまし。」とそれは親切に色々世話をし呉れました。其中にお女房さんは台所で頻りに御馳走の支度をしてお膳を持つて來ましたが見れば麥の御飯に御みつけの一と椀と外に御香のものが少しばかり外には何の御馳走もありませんでした。神様は是にはちと御困りでしたが、併し御腹は飢えて居るし可へは遠いので仕方がなく不精くに箸を採つて食

べて見ると何の結句贅澤な御馳走よりは甘く食べられました。さて御飯も済ましたので神様は宿の亭主や御女房さんと爐にあたりながら色々世間話をして暫く休んだ後おかみさんの布いて呉れた寢床の中へもぐり込んで寝てしまいました。寢ながら聞くとお女房さんの話を聞くと亭主の聲で

「今夜は寒いからね、御客様には布団を澤山掛けて上げなよ。私どもはまた例の藁の中へもぐらうぢやないか」

「あゝ、そうとも」御客様には布団を皆んな掛けて上げてしまつたよ。いゝとも私達は藁の中で澤山だよ」

頻りに内所話をし居ましたが、此方は神様のことですから幾等小さな聲でもちゃんと聞えてしましました。神様は

「さて、親切な人である」と感心しながら何時の間にか眠つてしまいました。

朝早く起きて見ると、寒いからとお湯が沸かしあり、爐には盛んに火が燃えて居て朝飯の仕度



もちろんとしてありました。頼がて朝飯も了りましたので神様は出掛け様として

「モシ、御亭主、宿賃はいくらですか？」

「イエ、何う致しまして、お幾らでも宜しう御座います。御覧の通りな、むさい所で嘸御心持悪く居らしたで御座います。う。お向ふ様など、比べましたら何も戴かないでも宜しい位で御座いますで決してモウ御心配には及びません。御客様が御風も召さず御機嫌よく御宿り下さいました丈でも澤山で御座いますので、少しも御心配には及びません、一錢でも二錢でも宜しう御座います。御思召で御置き下さいますれば結構で御座います」

「そうかね、それではほんとのことを話すが不實は私は、天の神様の御使で人間の様子を見に来たんだからね、今お金は少しもないのさ。其代り茲で宿めて貰つた御禮に何でも三つの御願を叶へさせて上げ様」

「コレハ、天の神様の御來で入らつしやいましたか一寸とも存じませんで大層失禮致しました

た。イエもうそう云ふ御方で御座いますなら何もほしいものは御座いません。一晚でも御世話致すことの出来ましたのが何より仕合で御座います。其他に何も御願ひ申すことは御座いけません。貧乏は致して居ります家が自分ので御座います、怠けさへしなれば食ふにも困ることは御座いませんから、別段御願ひ致す様なことが御座いません」と至極さつぱりと欲のない申分です。

「何も願うことがないとはそれは又感心な心掛けだ、併し御前さん達は此家をもつと立派なものにしたい氣はないのか」

「イエナニ、立派な家にしたくないことは御座いせんが、それは、とても、私の力では出来ないことで御座いますので實はあきらめて居るので御座います」

「宜しい。それでは私が此家を立派な家にして上げやう。」

と云ひながら天の使は口の中で何かモゴ／＼と呪文を唱へると是は不思議、見る／＼中に今迄の草



茸の藁家はすつかり消えてしまつて大きな立派な御殿の様な家になりました。

使「さあ家は立派になつたが、次には何が御願ひかね、御前さんは先刻食へるには差支ない」と云

つたが幾人で食へるのかね」

亭「へい、私等二人の者がで御座います。」

使「そうか、それならばかりでは仕方がない。それで

はムグくくくく、と是れでお前さん達二人は無論のこと何人でも此處の家に居る丈の人は安樂に暮らせる様になつた。サアもう此外にも一つ御願はないのかね」

と云ひましたけれど無欲な夫婦は別段の御願も考へ付きませんでした。そこで天の使は

使「何うしてもないかね。それでは斯うしやう。

お前さん方の此仕合が何時迄もつく様にして上げやう。ムグくくくくくく」と云ふ

かと思ふと「さよなら」もそこくに旅へと出掛け

てしまひました。こんなことをして居る中にそろく太陽は裏の山の上に表はれ出て夜は全く明け渡りました。流石

寝坊のお向ふの宿屋もそろく起さ出して下女が頼がて表の戸を明けると驚いたの驚かないのつて

下女「お話しにならない程下女は驚いた。」

「オヤくくくくくく」權さん、八どん、皆

来て御覽よ、向ふの貧乏宿屋は昨夜のうちに何處かへ行つてしまつて代りに恐ろしい立派な宿屋

が出来たよ。早く来てお覽よ。」と云ふので大勢のものが出て見ると成る程下女の云ふ通り立派な

御殿の様な家が出来て居ました。大勢の人達がわややく話して居る中に其立派な家の中から出て來

た人がある。誰れかと思つて能くくく見ると不思議にも例の貧乏宿屋のお女房さんで然も今日は何

となく立派で何う見ても立派な家の奥さんの様に見えました。けれどもお女房さんは今迄の様子と少しも變らず、大勢が門口に居るのを見て丁寧に

女房皆さん、おはやう御座います。今日もよいお天氣で結構で御座います」と申しましたので此

方の人達は益仰天して是れはま何うしたことだらうと頻りに不思議がつて居りました。併しだんく」と此話を聞いた慾ばり宿屋の主人は



主人「それは惜しいことをした。昨夜自家へ来た時にそうと知つたら宿めて遣るのであつたものを何とも云はないものだから、つい向ふの奴に付合せを取られてしまつた。併しまだ遠くは行くまい、今から追ひかけて、も一度連れて來て自家へ宿めて遣らう、それがいい」と一人で承知して大急ぎで馬に乗つて旅人の後を追ひかけました。一時間ばかり追ひ驅けて行つて見ると向ふへ昨夜の旅人がトボ／＼と歩いて行くのが見えしました。

「オーイお客様ア、一寸用事が御座いますから少しいまり下さいまし。」と呼び止めて置いて、傍へ行つて馬から降りて亭「お客様、昨夜は込み合ひまして誠に氣の毒なことを致しました。もう今日はお座敷も明きましたから何卒御出下さいまし。昨夜の代り、色々御馳走を差上げますから」と申しますと天の使は「ハ、ア、此奴貧乏宿屋が急に仕合せになつたので羨やましくなつて人を迎ひに來たんだな、とちやんと慾張宿屋の心の底迄見抜いてしま

いました、お知らせ振して使「それは、能々御親切に有り難う。併し私は先を急ぐから今から歸る譯には行かない。けれども折角親切に迎へに來て呉れたのだから、御禮にお前さんの願なら何んでも三つ丈叶へて上げやう。」と云ひますと、慾張り宿屋は大悦びで主人「それは有りがたう御座います。それでは何を御願ひませうか」と考へ出しましたので天「ナニお前さん、そこで考へないでも宜しい、是から家へ歸りながらゆつくり御考へなさい。私は急ぐから此で失敬」と云ひながら旅人はド

シ／＼行つしてまいりました。慾張り宿屋はさて何を願ふかしら何でも三つの願の中に慾しいものを皆入れて願はなければ損だからと道々馬の上で考へ考へ家の方に向いて來ました。もう半分と云ふ所まで來た時に何に驚いてか馬が急に暴れ出して何うしても靜まりません。餘り云ふことを聞かないので慾張り宿屋は我知らず大きな聲して



「斯う云ふこと、聞かない馬は殺して仕舞ひたいもんだな」と云ふと今迄暴ばれに暴ばれて居た馬が急にたりと倒れて死んでしまいました。是が第一の御願でした。慾張り宿屋は

「ヤレ／＼詰らぬことを云つてしまつた」と思ひましたけれども仕方がありません。併し馬は惜しくないとした所で此鞍や轡は百圓二百圓では買へない程のものだから是丈は持つて行かうと馬から脱づしてエツチラオツチラ擔ついで歸つて來ました。幾等冬の寒い時でも重い荷物を擔ついたので二里ばかり來る中に汗はた／＼と流れて來る喉は喝いて來て仕方がありません、けれども家を出て來る時に餘り急いで財布を持つて來なかつたので一寸茶店に休む譯にも行かず唯もう我慢に我慢してまた二里ばかり歩きました。併し何うにも斯うにも勘らなくなつて遂には往來へ倒れて仕舞ひそうになりましたので我知らず

「ア、疲れた。たまらなく疲れた。是れがほんとの寶の持腐れと云ふのだな。こんな時にはこんな道具よりは十錢銀貨一個の方がいいな」と云

ふと今迄あつた馬具はふいと消えてしまつて足もとに十錢の銀貨が一つ轉り出しました。是が第二の御願でした。慾張り宿屋はしまつたと思ひました。もう探り返しがつきません。仕方がないので悔しまぎれに十錢銀貨を川の中へ抛り込んで驅け足で自分の家へ歸へつて來ました。餘り喉が渴くので門口から

「オイ／＼水だ／＼早く水を一杯呉れ！」とどなり立てました。所が丁度此時に自分の子供が縁側から庭の布石の上に落ちて怪我をしたと云ふ所で家の中は大騒ぎで却々水を持つて來て呉る所の騒ぎではありませんのでしたけれど此方は又生命から／＼歸へて來た所ですら子供などの事云つて居られませんか。大きな聲を出して我知らず

「なぜ早く水を持つて來ないのだ、子供など何うでもいゝわい死んだつていゝわい」と云ひましたので大事な子供は死んでしまいました。是れで三つの御願が濟んで慾張り宿屋はあぶばち探らずになりました。



昨年は實に意外な發展をいたしました、これ偏に御得意様の一方ならぬ御引立に因る事と深く感謝いたします、で之に酬んが爲、本年は層一層、商品を改良し價を低廉に致す者であります、どうか不相變御愛顧下いますやう、吳々も御願申上ます……………

# 謹賀新年

幼稚園恩物商

天真堂

大坂東區島町二丁目	電話
五〇九六	長東
五七四四	替振
壹壹四九	大坂替振

天真堂は業務擴張のため、舊臘移轉いたしました。同時に營業法の大刷新をいたしました、主義は『品良價廉、期日迅速』であります……………定價表も全部改正し、亦商品の大改良を行ひましたから、どうか御試験を願います。尙御申越次第定價表差上げます。

## 本會研究部廣告

本會研究部に於ては本月十四日より來る三月十七日に至る迄毎週一回(十回完結)高島平三郎氏を聘して兒童心理の講演を聞かんとす。有志の士は左の規定に因り奮つて御出席あらんことを乞ふ。

一 開講

每週木曜日午後三時より五時迄

一 聽講料

金壹圓

一 場所

女子高等師範附屬幼稚園内

一 申込

はがき又は口上にて本會申込まれたし

因に記す。本會研究部は本講演の終了後更に來る四月より七月迄の中に於て今一回高島氏を煩はして今回の講演に漏れたる總論並に青年期の心理に關する高説を聞かんとす。

明治四十二年一月

フ レ ー ベ ル 會



# 各女學校御用

## 美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

## 摘細工材料

絹縮緬及金銀毛、寫真臺紙柱掛

## 瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年一月一日印刷  
東京市神田區錦町三丁目熊田印刷所内  
發行所 フレノール會